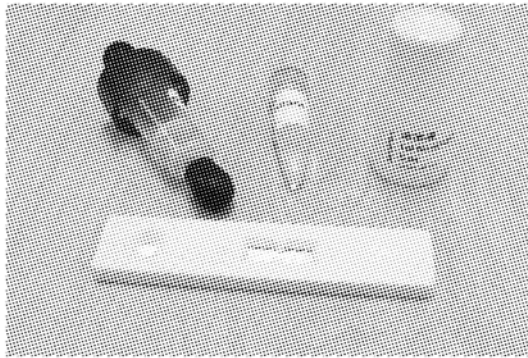


# レジオネラ属菌検出キット



その場でレジオネラ属菌の有無を判定できる高感度な検出キット

レジオネラ属菌を吸着する微粒子を入れたカートリッジに、市販の小型ポンプを使って5〜10リットルのサンプルを通し、菌を1万〜2万倍に濃縮する。

得られた濃縮液に試薬を塗布した紙を漬けて、紙の変色の有無でレジオネラ属菌がいるか判定する。

従来は専門の機関に少量のサンプルを送り、検査を依頼するのが一般的で、結果が出るまで10日ほどかかっていた。同キットは短時間で結果を得られる上、大量のサンプルを検査対象にできるため偽陰性率も低い。

今後は安価な専用ポンプの開発に取り組む。さまざまな試薬を組み合わせることで、食中毒菌の検出などに用途を広げることが検討している。

レジオネラ属菌は感染

【千葉】プレシジョン・システム・サイエンスは、その場でレジオネラ属菌の有無を判定できる高感度な検出キットを開発、発売した。妊娠検査薬などで知られるイムノクロマト法に、独自のビーズ濃縮法を組み合わせて簡便性と感度を両立した。1時間ほどで誰でも簡単に判定できるため感染症の発生防止に役立つ。価格は10回分3万1500円。循環水を利用している温浴施設や老人福祉施設などに売り込む。

プレシジョン・システム・サイエンス  
プレシジョン・システム・サイエンス  
ビーズ濃縮法採用

1時間で高感度判定

すると肺炎や発熱などを引き起こし、高齢者や新生児などは死亡する場合もある。循環水を利用した風呂や貯水槽、加湿器の中などにも生息するといふ。国立感染症研究所によると2008年の感染報告件数は892件。検査技術の進歩もあり、報告件数は年々増えている。